

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部3年 供田 貴子

① 学習成果

(今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど)

香港に来て真っ先に驚いたのは、そのエスカレーターの速さだった。日本の国民性は勤勉でせっかちな方だと思っていたが、アジアの国々においては香港や韓国の方が当てはまるかもしれない。正直、本プログラムに参加する前には香港のことをあまり知らなかったが、実際に現地に来てから、自分のなかにあった日本文化というものさしを通して知ることができた。どこの場所でも察することではあるが、格差のようなものを香港ではより如実に感じた。室外機が連なる少し古いビル群と、尖沙咀やセントラルの方のピカピカのビル群がそれを思わせた。

香港に3週間暮らし、その文化を体感することで、良い点も悪い点も含めて日本という国を再認識できた。自国文化は、現地学生や他の地域から来ていた留学生との交流や、香港で外出した際などに「あれ?」と違和感を覚えたタイミングで気づくことができた。このような経験は日本で同じような人と一緒にいては気づけないものである。

② 海外での経験

今回の留学で最も印象に残ったのは、中文大学生の友達ができただけである。京大と中文大学が行った共同セミナー発表の際に話してから仲良くなった。これから海外に行き日本に興味がある人と話す場合は、まずアニメや漫画を見ておくことをオススメする。日本人と話したいと考えている人の多くは日本文化、特に上記のようなことに興味を持っているからである。中文大学の友達は私たち留学生を招待し尖沙咀でピクニックをしてくれた。彼女たちとは現在でもたまに連絡を取っているし、日本に留学に来るのが目標だと話してくれたので、留学にせよ旅行にせよ、もし日本に来てくれる時にはぜひ日本を案内したいと思った。

また、現地では学生の多くが体調を崩していた。急な環境の変化と香港を味わいたいという気持ちからの葛藤が原因なのではないかと思う。私は比較的旅行などでは体力が持続する方であり、体調を崩すことはなく、毎日充実した生活を送ることができた。以下に私が実際に現地で授業以外にどのような経験をしたか記す。授業も宿題も多く大変であり、外出しなくとも何かしらの経験は留学先で得ることはできるが、体力と気力次第では毎日外出することも可能だと思う。

8/6：移動。夜沙田で点心。

7：Welcome Party。バスツアー。夜尖沙咀で点心。

8：授業スタート。クッキングクラスに参加し moon skin cake を作る。

9：香港港市大学で点心。

10：フルーツパーティ。

11：昼火炭で点心。共同セミナー発表があり現地学生と仲良くなる。

12：M+という美術館・女人街・男人街などを巡る。

13：文武廟、キャットストリートなど。セントラルへ。トラムに乗る。ワゴン式飲茶を体験した。

14：スペインからの留学生とカフェで交流。ハンコづくりクラスに参加。

- 15: 休。
- 16: 大学で洋書を買う。フラワーマーケットを見に行く。
- 17: 夜中文大学の学生と旺角でラーメンを食べる。
- 18: 留学生やその知り合いさんと台湾火鍋。現地に住んでいる方と尖沙咀の夜景。
- 19: BigBudda と Tai-O 島ツアー。
- 20: マカオ日帰り旅行。
- 21: 中文大学の学生と尖沙咀でピクニック。
- 22: 放課後、お土産に陶器とクッキー缶を買いに尖沙咀の方へ行く。
- 23: 休。
- 24: 夜に中文大学の友達にテスト勉強を手伝ってもらう。
- 25: 同じクラス的女子たちでテスト明けに学食でフレンチトースト。フェアウェルパーティ。
- 26: 空港へ移動。

③ プログラム内容

ISS(International Summer School)プログラムにおいて、平日は以下を行った。

- ・ 9:30-12:15 W/R の中国語(普通話)授業
- ・ 14:30-17:15 S/L の中国語(普通話)授業
- ・ 加えて毎授業のオンラインまたは紙媒体の宿題

授業のレベルは初め数日のうちに申請し、面接に合格すれば移動可能。各レベル間の差はかなり大きい。今回のプログラムでは4つのレベルに分けられていた。土日は中文大学側が準備してくれるツアーなどの予定がなければ自由に過ごすことができる。

到着後、最初の月曜に香港を巡るバスツアー、Welcome Party がある。途中の土曜に Tai-O 島を巡るツアーなどもある。最終日には期末テスト、Farewell Party がある。テストを除いたツアーやパーティは中文大学の学生や職員の方々が全て企画・案内してくれる。その他にも ISS 生に T シャツやタンブラー、文房具などのプレゼントもあり、こんなにもてなしてもらって良いのだろうか、と思うレベルの歓迎であった。

④ 進路への影響

今回の留学経験により、国際交流というものへの躊躇がかなり減少した。今後は京大にあるきずなのシステムなどを通して積極的に留学生と交流する予定である。私の学年だと留年しなければ難しいが、交換留学にも可能であれば行きたいと考えるようになった。本プログラム中で何度か感じたことであるが、「こう言いたいのになんとはいえいいのかわからない」という状況が多かった。もしもっと英語といった他言語を上手く扱うことができればこうしたことも減るのだろうか、と考え、より他言語を学習したいと考えるようになった。また本プログラム中で日本人ではない留学生と会話することで、海外には3か国語以上話せる人が多くいるということに気づいた。そのため中国語学習に加え、他言語学習の意欲も湧いた。HSK の受験を検討し、現在使用している Busuu という語学学習アプリで他の言語も学んでみようと思う。